

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

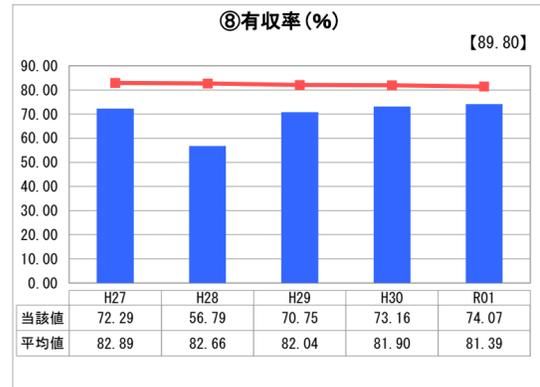
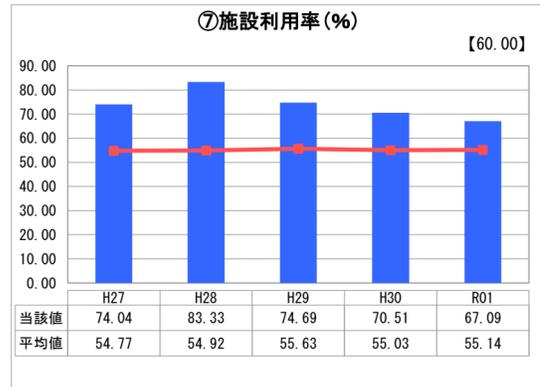
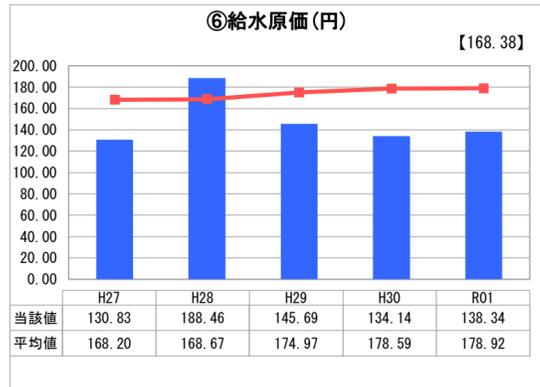
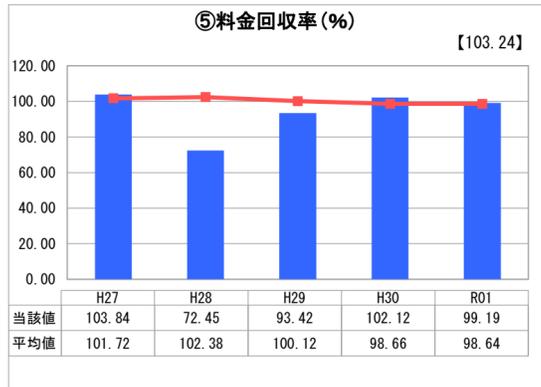
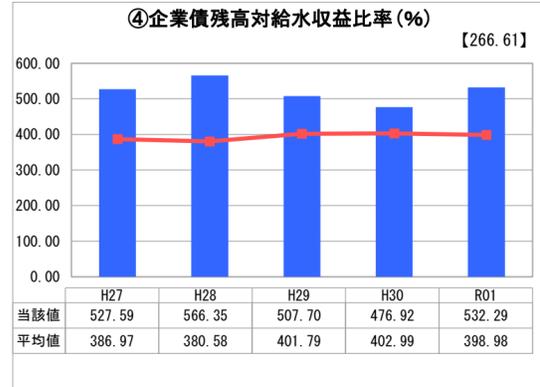
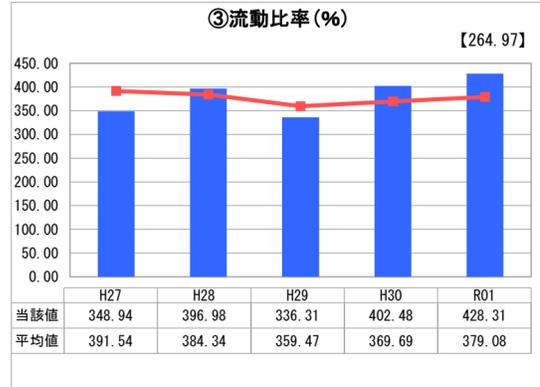
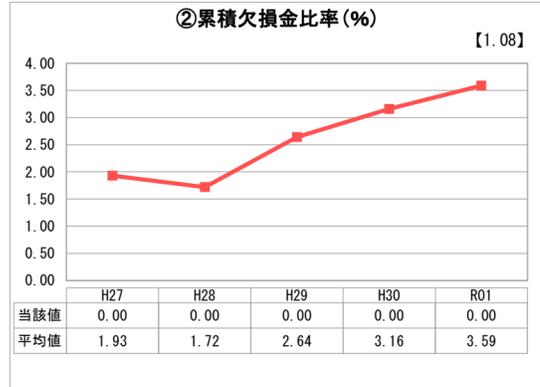
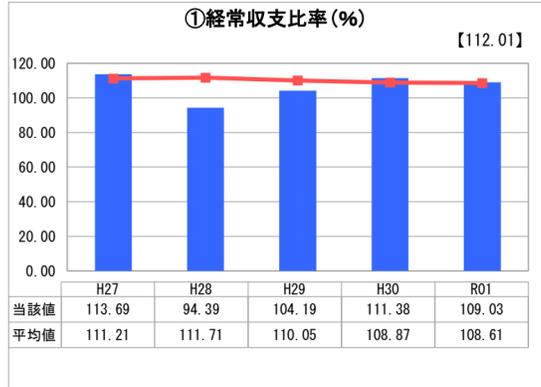
熊本県 阿蘇市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	69.50	82.08	2,629	

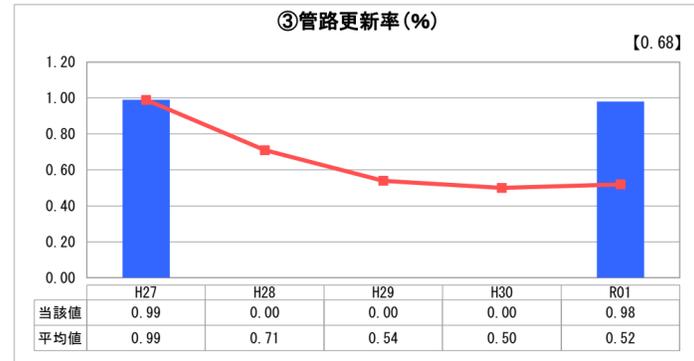
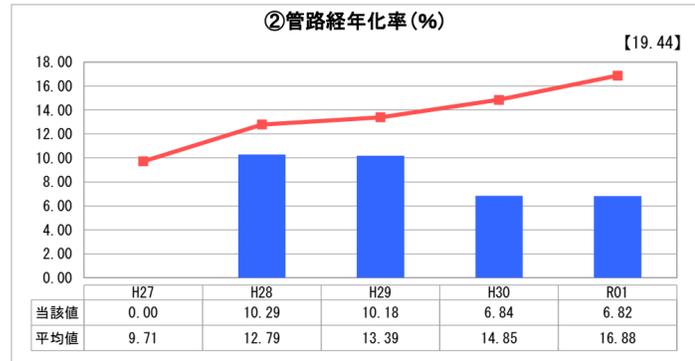
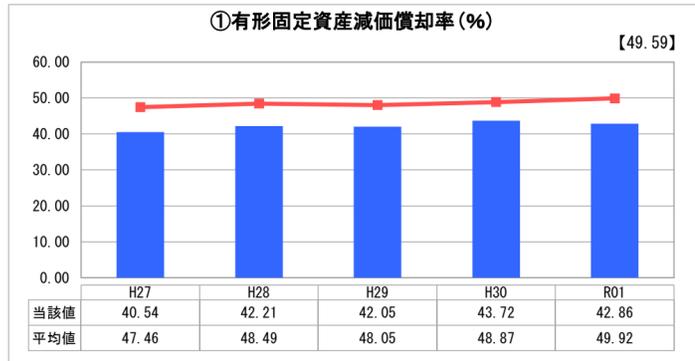
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,924	376.30	68.89
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,504	191.72	112.16

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[ ]	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本市水道事業の経営状況について、H28年度に熊本地震の被災に伴い数値の減があったものの、経常収支比率や料金回収率はほぼ震災以前の数値まで回復に至りました。給水原価についても豊富な地下水資源を有していることや、施設利用率についても適正規模での運用ができています。類似団体との比較では概ね良好と考えています。しかしながら、水道料金収入は減少傾向にあり、更なる維持管理費の削減を行い経営の効率化を図っていく必要があります。現在、水道事業会計の借入金残高は令和元年度末で約20.0億円あり、今後は毎年約1.5億円を償還して行かなければなりません。また、老朽化している施設の更新も控えていることから、料金体制の見直しなど、企業債残高の給水収益比率を見てもいかに借入金に依存せず資金を確保するかがこれからの課題となっています。

### 2. 老朽化の状況について

水道局管理分の給水管を含めた管路の老朽化が顕著となっており、漏水量の増大から有収率の低位推移が依然として経営上の問題となっています。熊本地震による災害復旧事業も終え、令和元年度から老朽管の更新事業に取り組み、今後も限られた予算の範囲内で耐震化対策も含め計画的に更新事業を行っていく必要があります。

### 全体総括

全体的に熊本地震の影響で数値の減が見られた項目についてもほぼ災害以前の数値まで回復したが、今後、施設・管路の老朽化や将来的に水道需要者は減少し、水道料金の収入も減少していく中で、各水道施設では更新時期を迎え、過去の建設改良費の元利償還金や既設施設・老朽管の更新等の経費が増えていくことが予想されます。今後、水道事業の「経営戦略」を作成予定であり、併せて動力費や修繕費などの経常コストの節減や、漏水調査・施設の効率的な稼働による有収率の向上などに取り組んでいき、料金改定を念頭に置いた経営基盤の改善・安定化を目指していきます。